

昭和三年十二月十八日招集(第三号)
第四回市議会定例会々議録

館山市議会第四回定例会会議録（第二号）

昭和三十九年十二月招集

一十二月十八日（金曜日）

一議事日程（第二号）

第一議案第九十五号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の制定について

認定第一号

昭和三十八年度館山市歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和三十八年度館山市特別会計公益質屋歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和三十八年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和三十八年度館山市特別会計と畜場歳入歳出決算の認定について

第二

認定第五号

昭和三十八年度館山市特別会計波左間及び

加賀名地区簡易水道歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和三十八年度館山市特別会計休養施設歳

入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和三十八年度館山市特別会計ユースホステル

歳入歳出決算の認定について

認定第八号

昭和三十八年度館山市特別会計鮫切簡易水道

歳入歳出決算の認定について

午前十時十二分開議

議長(里)佐太郎君)本日出席議員数 三十三名

二、(一)第四回市議会定例会第二日、会議を開会いたします。

本日、議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一議案第九十五号を上程いたします。

ただ今議題となりまゝの議案第九十五号につきまして、
原案を訂正したい旨の申し出が市長よりありまゝの
ので、二小より説明を求めます。

・福祉事務所長（鴉沢貫寛君）ただ今議長さんの方からお話がありまゝのとおりまことに不手際で申し分けありませんが九十五号の議案を一部訂正したいと思ひます。
第二条「二の条例は」と「本市は」に訂正いたします。
それから「第六条」を「第三条」に訂正いたします。
「第三条」を「第四条」に訂正いたします。

「第五條」も「第四條」に訂正いたしまして、
さらに訂正いたします。

青年館は青少年、その次、福祉以下を削除いたします。

それを次のように訂正いたします。

第四条「青年館は青少年の研修並びに福祉増進に利用しむけむなるべし。」とつうに訂正いたします。

第二項「前項以外、利用であつても」の次「地域社会」を削りましてそれを「住民」といたします。

「住民の福祉増進」と認めらるる場合、これを開放する。」

その下を削りまして「開放することができると訂正いたします。」

「第四条」と「第五条」に「第五条を「第六条」に訂正いたします。」

なお、議長の許可を得て訂正した議案を配付いたしたいと思つたので、さうかえをお願いいたします。

議長（里の佐太郎君）おはかりいたします。ただ今、説明のとおり、原案を訂正するに、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(黒川佐太郎君)非常議なりと認めます。よって議案第九十五号の一部訂正はこれを承認することと決まりました。訂正により成案を配付いただきます。

(議案配付)

議長(黒川佐太郎君)本案に対する質疑を継続いたします。

二八番(山田教字君)この条例によりますと、場所が指定されておるようでございますが、これ以外に設置する希望者が出た場合に設置することができますかどうか。第二点はこれと同トような条件で設置することを許しますかどうか、これを伺いたいと思います。

福祉事務所長(鵜沢資寛君)この財源につきましては一果から五十万、市費五十万を支出することになっておりまして、そういう関係で本年度は二カ所、これ以外に

設置することは財源上困難でございます。

二八番(山田教字君)本年度は不可能にしても将来はどうですか。

福祉事務所長(鶴沢寛寛君)三十九年度は二カ所でございますが、四十年度はやはり二カ所程度設置したいと考えております。

三五番(松本藤太郎君)市で五十万云々ということですが、この前説明を伺ったんですが、果や市から五十万ということとはつきりしてまつてゐるが、地元で果たして五十万だけで済むかどうか、実際にどう位完全にでき上ったとき、公費以外地元でどう位負担するようになるか。

それから本例会や初日には非常に安易な説明があったわけですか。

素人考えでまゝしても、維持費がかかると思う。

光熱費もかかると思う。或いは土地も市有地ではないので、
地元のおそらく土地だと思ひますが、そういう地代とか光熱
費、そういうものが相当かかつてくると思ふが、この条例でいき
ますと、使用料は徴収しない。一切地えでやるのだ。こう
いったような説明が十四日になされた。もういっぺんその点
をお伺ひたいと思ひます。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）が説明いたします。
第一点、補助金、額でございますが、これは果、方が
補助金最高限度五十万と定めてあります。

市が同額を持つということでも五十万、地え、方は本
年度におきましては、古茨口の方が五十万、上須賀が
七十四万、それは青年館の建物、そのものの坪数にも
関係いたしますが、果、指示は二十坪以上ということに
なっております。

地元と協議の結果、三十坪程度のものを作りたい、
 そういう関係で地元負担が出てきているわけでございます。
 それからそれをオーバーないかということでございます。
 が、この金額で入れ、請負契約もいたしまして、
 で、これ以上かかることはないと思います。

それから経費の点でございますが、市の考えといいたしま
 しては、もちろん光熱水費、その他維持費はかか
 りますが、細かい点は契約によって結ぶつもりでござ
 います。考え方としては、一応そういった費用は全部
 地元に持ってもらおうという考えでございます。

運営も地元にまかせるかわりに、そういった費用を地
 元に持ってもらおうという考え方でございます。

三五番（板本藤太郎君）地元としては、結構な施設で
 よろしいんですが、二百七十四万という負担も相当大き

が負担だと思う。その上に管理もまかすから一切地元にまかせるのだといっても、私地元の方から聞きまうだけども、そういった地代とか、或いはそういうものについて、一切市は何とも触れていない。どうやって入るのだというところが、役買の方から出てくる。

ですからあなたが、おっしゃるような安易なことでは、ちよつとまずいんではないか、今、サー、地元にこれだけ大きな負担を課しているんですから、その上、月々の維持費まで地元に持たせるということでは、この青年館の趣旨、目的にそわないような気がするうでありますうで、今、サー、地元にそういう経済的な負担をあまりかけないような方法で、今後をどうやっていいたきたいんですが、その点の御用意はいかがなものでありまううか。

。福祉事務所長（鶴友貫寛君）御趣旨の点はよくわかります。

ただ今年だけの施設でなくて、年々こうした施設をや
つていくつもりでありますので、そういうた費用が相当に
かかつて参りますので、そういうた方針でいきますが、また
上司の方と相談いたしまして、やはり趣旨にそうようにい
たいと思います。

。二番（君塚喜三君）第四条でございますが、字句訂正というよ
うなことで了解がなされておりますが、四条について見ます
ると、根本的に違つてしまつたのではないかと、いうふうにみ
える。なぜならば、最初の方につきましては、「青少年福
祉に寄与する場合」には、何人といえども使用を拒ば
まない。「住民の福祉増進」と見らるる場合には、開放す
ることも妨げられない。今度は「住民の福祉増進」と認
めらるる場合、これも開放することができる、というふう
に内容的に違つてしまつたように思いますが、この点どう

ような考えか。確認いたしたいと思います。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)や説明いたします。字句は
かわりまいたけれども、条文の精神は同トだと思っています。

・二番(君塚喜三君)そうしますと、「研修並びに福祉増進に
使用しなけねばならない。」ということは精神として、そう
して使用に關しまては、何人といえども使用を拒むこと
ができないという趣旨だということでございますか。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)そうでございます。

・議長(里見佐太郎君)本案に対する質疑はこゝにて打ち切り、
討論省略原案どおり可決するにや異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(里見佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決さした。日程第二、認定第一号乃至
第八号昭和三十八年度一般会計並びに特別会計決算

書を一括して議題といたします。

市長の提案説明を求めます。

(市長 登壇)

市長(本間讓君) 認定第一号乃至第八号につきまして提案理由の説明をいたします。

本件は昭和三十八年度館山市歳入歳出決算ほか特別会計と件、決算の認定についてであります。二は、証書類とともに監査委員の審査に付し、たうで、地方自治法第二百三十三条第三項の規定により、まいて、別紙監査委員の意見も付して認定に付するものであります。よろしく市審議のほどを願ひ申し上げる次でございす。

議長(黒川左太郎君) 以上で説明は終りました。

認定第一号乃至第八号を一括して質疑を行ないます。

。三二番（三沢節君）この際、議事進行の動議を提出いたします。
ただ今、議題となりました認定第一号乃至第八号の質疑
の方法は、認定第一号の一般会計の歳入歳出を一括
してまず、質疑を行ない、次に認定第二号乃至第八号の
特別会計の決算を一括して質疑をなしますように、
ここに議会運営協議会を代表して動議を提出いたします。

（「賛成」という声あり）

議長（黒川佐太郎君）ただ今、三二番議員君より提出の動議
に、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）市異議なしと認めます。よって議事
進行の動議は可決されました。

このより認定第一号一般会計決算書、質疑を行ない
ます。この際申上げます。

中発言の折はページをお示し下さいますようお願いの申
し上げます。

三三番(三沢節君)ハ二ページの農林費二目防除薬剤が七
十万予算計上されておりますが、三十八年度という方法
でおやりになったか、さうぱりどうも依然としてふえておるよ
うでございますが、本年度の補正予算のときに質問
したいと思ひますが、三十八年度の手法或いは時期、
そういつた点について、中説明願ひたいと思ひます。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)この賃金でございます
けれども、これは地域一般の防除でございますんで、三
十八年度は海岸の砂防の防除を中心に実施
いたしまして、その賃金でございます。

それから薬剤費の件でございますが、この金額は松
毛虫の防除費のほか、神戸と西岬、館野地区の

畑地や土壤線虫の防除もありますので、人合わせまして薬剤を購入したものでございます。

・三三番(三沢節君) その次の糠松毛虫の防除もどうやらか、それを聞きたいんです。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 海岸砂防の松毛虫の防除を実施したところでございます。

ただ今申し上げた通り、市内全域にわたる関係は、この三十八年度は、金般的にいたしませんで、海岸砂防だけの実施をしたわけでございます。もう方といたしましては、薬剤を購入いたしまして、海岸砂防組合、西畑、神戸の海岸砂防組合、この組合に委託いたしまして、もちろん、市も参加いたしまして、たけいとも中へいになって防除を実施したわけでございます。

薬剤の散布でございます。

。三番(三沢節君)その点は了承いたしますが、防除関係に関連してまして本年の補正予算に松毛虫の委託料百四十万円組み込んでありますが、これは相当に被害が広範囲に入っております。しかも今この予算を組んで果たしてという防除をおやりになるか。時期が遅いと思います。

すでに枯れた松の木の中に松毛虫はいないと思います。もう羽根がはえて飛んでしまつてゐる。こういう抜けがらの松をどういうふうに予防して来年度の発生を防除しようというものか。この防除方法をもう少し細かくお答え願ひたいと思います。

。農林水産課長(伊藤幸太郎君)今お話を伺つて、時期的にはすでに遅いとおるという感をおぼえるわけでございますが、遅くはせながら、今回補正予算をお願ひいたし

まして実施しようという方法としまして従来は各個人個人の防除にやうしておったわけでございます。

しかしながら自分の持物になるとなかなか切った防除も不可能のような点が考えられますので、今回につきましては統一いたしまして、全体計画にのりまして伐採をしてそうして~~伐~~はぎまして燃すなり、或いは薬剤を散布するなり事後処理を完全下して参ります。

今回防除委員会を市で作りましてその防除委員会の組織の中においてゆる農協単位に伐採班の実施班を設けまして計画的に全域にわたりますところの被害木を徹底的な伐採を行ないます。

伐採班につきましては、各農協の参事さんと班長にお願いたしまして各地域、協力委員さん、協力を求めまして伐採班を設けまして統一的に伐採して参りたい

というようなことで、計画いたしてあるわけでございます。

時期的にいきましても、この暮から二月いっぱいぐらいを目標にいたしまして、全域の伐採を完了へと処理をして参りたい。

今後、発生につきまして、基本的な伐採を完結して参りたい。というような考え方で、県の補助金とにらけ合わせまして、百四十万余の費用をお願いいたしたわけでございます。
^{三三番}
^{三三番} (三沢節君) 大体わかりました。が、現在被害木の調査が約一月位前ですか。調べたんですが、現場を調査して、その石数を出した。これは見える程度を書いた報告だと思ひますが、実際、山をやり回って見ますと、非常に食ひ違つた数量が算定になつてきてゐる。また、さうかくゐるうちに、まず、時期ははずれてゐる。今枯れた木を切つてしまったところでは、虫はいない。新しい木に移つております。

防除の方法が果たして徹底的にできるかどうか。これは非常に配なんでございますが、その点、もう一回お聞きいたしまして、今後よく努力していただきたいと思いますが、その点だけ。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）おおせう通り確かにそういった点も見受けられますが、もういつべん伐採班に調査をさせまして数量をまとめることになっております。

その一環といいたしまして、回覧板によりまして、各個人から伐採木、被害の届出を各農協に提出するようになつて、うことを流してまいります。

伐採班につきましても、地区内、関係でございしますけれども、もう一度慎重な調査をいたしまして、実施に取りかかるという段取りをつけておるわけでございます。

・三三番（三沢節君）この点については特に松を持った山の所有

者に非常に恐れられているところでございますので、防除
としてもよろしく慎重を期して有効適切にやっています。
だくことを望みまして打ち切ります。

。ニニ番（君塚喜三君）七九ページと款保健衛生費の中
十項一尿処理施設工事費の二目需用費の中に十
六節通信運搬費についてお伺いいたしたいと思います。
す。

公害における入院患者輸送費、及び自動車五リ
等として九千六百六十円が支出があります。これは、
過ぎた六月の会だったと記憶しておりますが、ニ五番議
員からの通告質問があった一尿処理場建設工事
の水に伴うガス事故について、少り良作氏を労災
病院へ輸送費がどうか、お尋ねいたします。
。助役（小出武男君）今ちっと確実なものがございます。

で、書類を調べてお答え申し上げます。

八番(望月照正君)ニ、三お聞きたいと思っております。

まず、第一点は、三ページ市税の収入未済額なんでござい
ますが、これは、三十七年度より千六百万円に對する繰り越
り未収入金が三十八年度にいかほど入ったか、まず、お示し
願いたいと思います。

収納課長(多田俊一君)お答えいたします。三十七年度から
三十八年度に繰り越さした、いわゆる滞納額は、千
五百六十九万八千円、それに対して収入未済額が五百
九十八万六千円、収入歩合、三八・一四％になっております。

八番(望月照正君)昨年より十二月、市会におきまして、二
三の方から滞納の撲滅を期してもらいたいということと
だいたいしたのでございますが、三十八年度より収入未済額
もまた百二十万ほどふえておる。

それで、なお、三十七年度の繰り越し分が五百九十八万が三十八年に入っているといたしますと、三十八年度に発生した収入未済額は、合計で約千二百万円ほど出たと、いうことなんです。が、こゝに對する申説明を願ひたいと思つております。

・収納課長(多田俊一君)申指摘のとおり、滞納繰り越し分がふえております。

我々も努力が至りませんのでふえてきた。もちろん調定額がその分だけ年々ふえております。それと同時に弁解がまゝになります。三十八年度は十一月頃から事務改善のために相當の手段が加つたというふうなこともございまして、我々といふところは、極力努力しておるわけでございしますが、ふえておる次第でございします。

・八番(望月照正君)わかりました。来年度の十二月には是非こゝろ

いうことは質問—なくて済むようにしていただきたいと思います
次に支出の中より不用額が相当ある。でございしますが、三十八
年度の補正予算の総額が六千万、これに対する不用額
の%が約三割弱、補正予算の額が何かもう少く、慎重
重に補正予算の額を提出していただきたい。また当初
予算の額を慎重にきめていただきたい。

このように考えておるわけでございしますが、不用額の合計
が補正予算の三割弱の額が残ったということにつきま
して、説明願いたいと思っております。

。助役（小島武男君）不用額の点でございしますが、漫然と不確
実のために不用額というふうに見らるる点もござい
が、大体、ここにあります不用額は、個々に検討してみます
と、事業が中止されたものと申—ま—ても、これはひま
付きの事業の中止が非常に多いようでございします。

或いは、方々がかわつたために予算以内で済んだというふうなもの、それからその他は大体個々の執行面における節約による不用額。こういうものが累積して千六百万、というふうになつてきておるわけでございます。

監査委員の意見書にもございますように本年度の執行率が九七・四ですが、非常に高い執行率になつてゐると思ひます。

前年度に比較いたしますと、若干向上した執行率になつてきておる。こういうことでございます。

それから補正額と不用額があまり開くということとは、補正自体がおかしいという点もあります。今申し上げますように個々に見ますと、時間的やずれによるものも相当ございします。ことを申し上げます。

八番(望月照正君)よくわかりました。次にもう一点でございます。

ますが、七ページの第二項の目的でございしますが、これは、館山市在住の方でさーきわりがあると思ひますから、あえて事業所の名前は聞きたいと思ひておりませんが、入場税の延人員が四百二十名というのが、実際問題としてどこでどういった事業所をさすのか、それをさすお聞きしたい。

それから、一人一百二十円という入場税の税額につきまして、年間延人員が四百二十人というのは、常識的に判断しても事業として成立しない。このように考へておられますが、この点について、説明願ひたいと思ひます。調査課長（高木哲三君）市内で該當しておりますが、館山の温泉でございします。

四百二十人になっておりますが、途中でボイラーが二名お亡くなりなっておりますが、実際問題

温泉として経営は困難という調査の結果が出て
あります。

八番(望月照正君)課長さん、先ほどもいいましたとおり、あそ
で事業所の名前は本議会で開かれなくても結構だと
思ったのでありますが、延人員四百二十人といえますと一日
一人ですと、よく調査して一日一人だったんですか。

調査課長(高木哲三君)これは事業所と相談いたしまして
事業の内容についてはお答えをはかりますが、看板を
出している以上は入湯税は払っていたかなければならな
いということでは四百二十人で何と申しますか、話し合
いがついたということではございます。

八番(望月照正君)課長さん、三十七年度は幾らになつて
ありますか。

いわゆる税額にふて話し合ふということはどういったことですか。

調査課長(高木哲三君)三十七年度は一万四千四百円でござい
ます。

経営不振の関係で話し合いで数字を出します。

八番(望月照正君)課長さん、これは地方税法によりまして一
年間、資料費は必ず取って置くべきだという法律がある
と思いますが、一年間、資料を見て、こういうことになっ
たんですか。

調査課長(高木哲三君)実際あそこ、利用者と申しますと、前
所々お年寄りやなんか、何人かいく程度で温泉として
入る、利用しているという方は、夏場はある程度あるら
いんですが、あとはたいしたことはございせん、で、この程度に
しております。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時

休憩

午前十一時十八分再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

・調査課長(高木哲三君)入場税についてお答えいたします。

入場税は申告によって課税することになっておりますが、申告書に基きまして調査いたしまして、その申告が適正と思ひましたので、四百二十人で課税いたしました。さつきう話合ひというものは取り消されていただきます。

・八番(望月照正君)話合ひということが税金や賦課に付しまして取り消していただければいいんですが、是非

適切な調査方をお願いいたします。質問を終わります。

・議長(黒川佐太郎君)ただ今、番外から取り消しや発言があまりないが、これを承認するにや異議ありませんか。

(「異議カー」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議カーと認めます。よって「話し合
い」ということは取り消しになりまいた。

助役(小出武男君)先ほどニニ番議員から質問でござい
ますが、中指摘のとおり、二月十三日に入院するとき、
代、二月二十一日、退院するとき、左リ代に間接いございま
せん。

ニニ番(君塚喜三君)再質問いたします。

あの事故については、三十七年八月頃だったと聞いており
ますが、二カ月位、労災病院に入院しており、退院後は
月に一回位、診察にいらしたと聞いております。

この間、補償的治療費と申しますか、だけでも、かなり
の額になったものと思ひますが、三十七年度の決算書に
も、それらしいものがうつっていない。

今回、三十八年度の決算でいわゆる繰越費が九千六百六十円、初めて決算書に額を出してきたものであります。が、補償的支出額は残るで決算書についてどこから支出されているのか、教えていただきたいと思います。

助役（小虫武男君）お答えいたします。少りさんに対する医療関係の治療費は全部市で支出しているわけでございまして、費目はあとで申し上げます。

全部公的治療代は市で負担しております。

三番（君塚喜三君）支出総額も合わせてお答え願いたいと思います。

助役（小虫武男君）今支出書類がございまして、金額算定はちょっと困難ですが、これはおそらく三十七年度からまたがっていると思います。三十八年度におきましては七七ページにございます。災害補償料一万円というのが

ございます。が、なお全部さということではございまいたら、後刻全部算定をいたしまして中報告いたしたいと思います。

。二二番(君塚喜三君)どうもこの事件については、「くさいものにふた」といったような感^{おも}トを受ける。事故の真相についてもかつての通告質問によつて認め^{おも}られるといった形、決算の時期に当たつてもなおかつ、この姿、不名誉である事故には違^{ちが}ひない。それだけに気持ちもわかりますけれども、よくも市費、公費、消費にかか^かる問題であります。一かもリカル紙にでかどかと報道せられた以上は、その事件において、社会問題化したと見るべきであつて、事実、その後部落の会合で私はあの事件はどうなつておりますかと聞かれたこともある。

ミスはミスとしてすなおに認めて反省の中から、こういう事件を二度と繰^{くり}返さないようにする。

こういふことないやうに要望して質問を打ち切ります。
ただ、総額だけ、のちほど市報告いただきたいと思ひます。
以上。

二八番(西村真次君) 一つお伺ひたいと思ひますが、歳入三ペー
ジの不能欠損額でございますが、これが九十八万ばかりあり
ます。この欠損額はという原因によるものであるか、また
どういふ積類によるものであるか、これを伺ひたい
と思ひます。

それから、もう一つ先ほど八番議員の市質問、収入未済
額が非常に多い、これは事務改善によつて手が足りなくな
つたために、未済がふえておるといふやうな市答弁だつた
と思ひますが、この点は、私も伺ひましてもまことに不本
意なやうな市答弁でございます。

事務改善は、大体総体的な市の事務の改善が目的で

行われたわけであります。

例え、一部の事務が改善されても、重要な収納事務に支障をきたすような改善は果たして改善といえるか。

この点非常に疑問に思うものであります。

当時は過渡期でありまして、手が回りなかつたということも了解できますが、少なくとも現在において徴収事務にさうつかえないような態勢がととえられておるかどうか、この点について、お伺いいたしたいと思います。

。収納課長(多田俊一君) お答えいたします。

総額におきまして九十八万三千六百二十円、不能欠損額を生じておりますが、これは大体二十六年、年度から三十四年度までの間の各細部にわたっております。大体執行停止をかけまして、時効完成によるものとそれから、細部にわたりましてはいろいろな事情のものもございます。

が、大体、私の方で打つ手は打っておったのでございますが、
 どうしても時効が完成されてしまったというものが理由でございまして、その点執行停止というものをかけまして三年たてば時効になるので、そういうものが出てきた。

我々係といたしましては、欠損に持っていくということは、面目もないということになるわけですが、この点申し分ないと思っております。

それからなお、事務改善によって徴収阻害されたという点につきまゝ、事務改善は、中承知のとおり改善のため、仕事でございしますが、なお、徴収事務につきまゝでは、今までの方法を全部やえましてカード化したのであります。

カードができ上りなければ我々実際に徴収にあらぬというところになっておきまして、一日も早くこのカードを作ろうということ、で極力ほか事務改善の作成も休ま

せてもらってカード化にかかって取員が努力カード。

そうして一日も早く徴収しなければならぬということであった。
この整理ができましてたのが、三月半ば過ぎというよりな
実情でございます。

現在は全部カード化しましてこの未納カードを徴収員
が持つて実際に徴収に出ております。

出納整理期間中である四、五月が取れなかつた。と同時
に国民年金滞納整理ということもございまして、二十五日
ばかり税金の整理に回れなかつたという事が実情でござ
います。

一か一五月の出納関鎖が終りましてから我々の方とい
た一ましても、極力内部の事務整理を行ないまして、
現在では未納カードにつきまして毎日徴収員が滞納整
理に回つておるといふ現状でございます。

一八番(西村真次君)ただ今中答弁がありましたように、能く
が整えられて徴収事務に支障がないということとて安心い
た—ました。

なお、税金の徴収は重要な事務でございますので、十分
今後慎重を期してなるべく欠損額を減さないうちに
中整理をお願いしたいと思います。

二二番(君塚喜三君)歳入歳出に関連する問題であります
が、歳出につきましては、六二ページに教育費の中、体育費
歳入につきましては、一—ページに六款使用料及び手数料
料、五目ガールの使用料とあるわけですが、市営プー
ルの運営についてお尋ねいた—ないと思います。

この問題につきましては、三十七年度の決算審査特別
委員会におきましても指摘をされ、その後委員長から
報告されておりますが、市営プールについて収支にたい

アン・バランスが見らるるが、今後の根本的整理について、検討する意思があるかという質問がされておる。

三十七年度につきまゝでは、収入予算十五万に對し、決算は十二万七千三百円、二万二千七百円の増減であります。これに對して、三十八年度でみると、収入予算十五万に對し、決算が十六万六千三百二十円、一万六千三百十円の増となつております。けれども、プール看守人の給料についてみまゝでも、三十七年度に比べて二万六千五百円の増を見ております。

依然として大きなアン・バランスが見らるるわけであります。三十七年度の決算審査において、答弁も三十万近い赤字も出てゐるが、使用料の値上げ等、シーズン水がなゝい、水事情の打開策として浄化装置を設置する、
考へであることも明らかになつてあります。

使用料の値上げは実施されたように記憶いたしておりますが、浄化装置についてはどうなっておりますか。

今後この問題について見通しとお伺いしたい。以上であります。

社会教育課長（利田正男君）お答えいたします。中指摘のよう
に相かわらず、収入と支出が、アンバランスになっておる
状態でございます。

入場料につきましては、宿舍の分だけが、団体関係が多
く上っておりますが、相かわらず、水に不自由させてお
りまして、どうしても、これは浄化装置によるやり方
がな
いかと思います。

社会教育委員会等でも、それから、体育指導委員、
そういう面からでも、そのことを配しておるんですが、
どうしても、五百万以上かかりますので、その問題を追々

市長部局とも打ち合っておりありますが、現実にはその予算ができずにあります。何とか一日も早く浄化装置を市内の学生なども夏季にかけまゝでは、あそこに取り込みで勉強してゐるような状態でございます。で、そういふものについても、西岬の観光の面でも今後利用していただければ、だんだんに浄化装置がでまゝは、マイナスが減つていくのではないかと。

そういうふうな考え方ももとに成案を急いでゐるわけでございます。

四十年年度についても、一応そういうふうな考え方で予算計上したいという意思を持っております。

・ニニ番(君塚喜三君)担当課長につきましては、浄化装置の実施も四十年年度に行ないたいという御意思があるわけでございますが、その点につきまして市長さん

二 録 山 市 議 会
どうふうにお考えになっておりますか。お尋ねいた
ます。

。市長(本間 譲君) 浄化装置につきまゝては、前から社会
教育委員会の方から予算請求があるわけですが、
なかなか相当の額を要するわけで、財政事情から
して、うまくいかないんです。教育委員会の方では
五百万円というておりますが、もうサー、安くいくでは
ないかと思ひます。

今年はず算編成中でございますから、できれば、や
りたいと考へておりますが、今検討中でございま
す。

。議長(里 川 佐太郎君) 午前中の会議はこゝにて休憩い
たします。

午前十一時四十分

休憩

午後一時三十分

再開

議長(黒川佐太郎君) 午後、出席議員数 三十一名、

休憩前にひき続き会議を開きます。

二四番(島野茂樹郎君) 不用願が多い項目につきまゝて二
三原因をお尋ねしたいと思います。

四八ページ、公園整備費八十六万円残っておりますけれども
も二、三残った理由。

七四ページ消耗品費、予防接種費、百六十万ばかり残つ
ております。二、三理由。

七八ページ、尿処理場工事費、二十四節工事請負費
百五十万ばかり残っておりますけれども、二、三につま
ま、使われなかった理由を、説明いたしたいと思います。

ます。

土木課長(新井重助君) お答えいたします。都市計画の公園整備費で八十六万円の不用額がふた。これは北条海岸に渠で休憩所設置するために渠の費用だけで間に合いませんので、電気施設と用排水その施設の費用も館山市でやることにいたしました。八十五万追加を当時お願いいたんですが、渠の事業も澤山まいて三十八年度で完成いたしましたので、三十九年度で予算を計上いたしまして現在施行中でございます。

このために八十五万の残が生じた。その他一万円はほかの節から集まったものでございます。

保健衛生課長(地田亮山君) お答え申し上げます。消耗品は予防接種のワクチン代でございます。

この中、小児エヒヤワクチン注射を実施することに当初計

画されておたうてでございますが、その後ただ今、実施してまいりますように生ワクを飲ませるようになっております。

それに要する費用が差額約八十万円程度浮いてゐるわけでございます。

次に日本脳炎の注射ワクチンでございますが、これは当初見込みましたものが、八千五百人分をまゝして約百一十万円ほど当初の計画でございます。ところが日本脳炎の注射希望者がございませんで、そのまま注射を実施せずに終つたという以上理由でございます。

助役(小出武男君)第十款―尿処理施設工事費の中で、工事の請負費で百六十万残つておるわけでございますが、こゝおもなものとしましては、処理場に車庫を建設する予定であつたわけでございますが、いろいろ場所の関係で作らなかつたということがおもな不用額を出したものでござ

ございます。それとあとの一部分は諸工事やまゝの差額が累積して総額で百六十万ということでございます。

・二四番(島野茂樹郎君)車庫は必要がないのではなく土地ができない。そういう中答弁のようですが、そうすると今後は土地さえできれば作るんだということでございます。ようか。

・助役(小出武男君)この車庫は主として市でもっておる車庫というふうに考えておりまして、今一台でございまして、さらに今後何台かあります。そのときには一つあそこに置く方がいいではないかというふうに考えまして、それあえず、こちらに持ってきて置いて、その方が管理もよろしゅうございます。便宜々ために作らないという面も取ったのでございますが、今後ふえることにあります。そのときはまた新たに考えて、その方が便宜だということになります。そのほうか向にいきたい。かま

うに考えております。

一〇番(辻田実君)ただ今、問題について関連して二三ページ、
雑収入、実費徴収金という形でもって予防接種とそれから
制殺虫剤とか、こういう問題について収入が少ないわけです
けれども、この点につきましては先ほど、点があつたと思うん
です。いろいろ予防注射とかそういうもの、合計で換算
してみますると、非常に収入増額と支出金との割合が支
出金の方が少ないようなんですけれども、こうなると注射の
代金というのが高いものではないか。注射をめぐってかなり利益
をあげているような感があるんですが、どちらとも当初
予算から半分位、更正さいておりますので、その内容がわ
からないので、その点につきましては、どううになつてある
のか、お伺いしたいと思うわけでございます。

・保健衛生課長(池田亮山君)この決算からみますと、市指摘

とおりでございます。

ただ歳出の面で今の消耗品と二十二節に委託料がございます。医師を雇い上げました経費を含めたもので注

射料といたしますが、そういったものを取りようにという保健

所の指示がありまして従って予防注射によつてもうかるというような利潤があるというような状態ではございません。

一〇番(辻田実君) この点については一つだけお伺いしたいわけですが、保健所で示されたところの個人負担、そのとおり徴収いたしますと注射代金だけでなくてほかの方々にこれ出ている予防費とかそういうものをひくためた額になるというふうに解釈してよろしいでしょうか。

保健衛生課長(池田亮山君) ワクチンだけでなく、それに伴う例えば、脱脂綿とかアルコールとかそういうものは申し上げました医師の雇い上げ、そういうものを含めて一つの注

射に対しては幾らまで徴収してよろしい。

こういうふうな状態でございます。だから、単にワフチン代
だけではないということでございます。

。二七番（嶋田繁君）産業経済費ですが、ハニページ、三ページを
みますると、ここにも負担金、補助金、そういう項目がかなり
四羅列されてあります。

全体を見ましたら、かなり多いものがある。私はこう考
えておりますが、みると、五万だ、三万だというふうな額が四羅列
してありますが、果たしてこれをやってそれだけの効果が上って
おりますかどうか。もちろん補助金もいたしまして、その結果、
効果が上っておれば結構なことでございます。従って、
効果が上ってある場合には、これををもって打ち切るべきも
のである。こう私は感じます。

そうしてまたその他、何でも予算なり、決算なりを

十分取って果たしてどういふ効果が生じておるか、有効に使えておるかどうか、そういうことをはつきりとや調査なさっておりますかどうか。

そうしてこういう細かいものを統一する余地がないかどうか、以上のような厳密な調査と申しますか、その策をなさっておりますかどうか、それをここで一つお伺いしたいと思います。さらに将来はこれをなるべく統一すべきものは統一して、そうしてもっと重点的に効果を上げるように努めるというところが、将来必要ではないか、こういうふうに感じますが、これについてや回答を願います。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）ただ今の質問でございますが、特に農林関係につきましては、補助金等々の課目が非常に多くございます。

大体大きく分けますと、補助金や出方としまして、

現状におきまゝでは、渠等と、関連性がある負担金、補助金と、市独自でいろいろ事業等に対してまゐる補助金と二つに大きく分けられます。

最初のもものは、やはり市とある意味、義務的負担という意味が強くなりますので、これらはやはり将来も市だけが考え方でどうすべきかということは、むづかしい問題だろうと思います。ただ、市独自で流れておりますところ、補助金、負担金等につきまゝではお説々とおり相当慎重な考え方もと、整理統合すべき面も確かにあるうと思ひます。

ここに出ております項目につきましては、私どもなりにやはり調査或いはまた現地に参りまゐる成果、そういうたもつを見ておりますけれども、あるいは額が非常に少ないものが相当ございますので、それらにつきまゝでは若干の換

討しなければならぬ問題があるようにでございます。

でございますので、将来の問題としましては、市独自の補助金・負担金につきましては十分関係方面とも連絡検討いたしまして考えていくべき必要があらうかと思っております。

そういうような考え方で四十年年度以降につきましてはある程度の改正理統合とはかつて参りたい。またもう一つは、正、このように出されておりますと、受益者側におきますと、一年間の事業の予算を持ってあるわけでございまして、急激にこれを廃止するということにつきましては問題が相当出てくるわけでございます。

でありますので、そういう勘案をいたしまして、将来、そういった問題の整理或いは廃止ということにつきましては考えて参りたい。そういうふうに考えてあるわけでございます。

・二七番(嶋田繁君) 当を得たや答弁承ってういーんと思いま
すが内容はよく調査して補助金・負担金・そういうもの
をいわける経常費に持っていていかには困るのであつて。そ
ういふところをよくながめてやつてもらいたい。補助が多く
なつてくると効果が上つてくれば打ち切る勇断が必要で
ある。

今統合したいというお説があつたが、結構でありますか
ら将来今度予算もそういうふうになるでしよう。

十分検討なさつて重点的にもうサー数を減らすという
ことが必要ではないか、こう考えますけれども、それを聞き
まゝで打ち切ります。

・三五番(松本藤太郎君) 四九ページの教育費、教育費総体で
百六十何万という不用額を占めておりますが、その中で
特に小学校費において管理費が五十八万円も金を余

してある。

中学校においても十六万円、幼稚園においても十萬幾ら残してある、こういうふうなことであります。説明書を見ますと、予算通り執行したことになりますが、これは予算通り執行したというふうには受け取らないんですが、その点をお聞かせ願いたい。

それから流用ですが、小学校費が三項、五日、二十六節の流用が非常に乱脈である。金を持っていったり、持ってきたり見通しがない流用としておるようには決算書を見ると見受けられますが、その点のところをお聞かせ願いたい。

・庶務課長(干場伊右エ門君) 小学校費、中学校費、それから幼稚園費等、不用額のことでございますが、小学校費が五三ページの営繕費五十八万二千三百八十五円、不

用でございますが、そのうち特に大きいのは、工事請負費の
五十六万二千七百三十五円というところでございます。

これは館野小学校の講堂が、当初予算で四百六十万
円のところ、これが四百万円が入札になりまして、それに十四万
九千円の電気配線工事が加わりまして、約四十五万一千円
ばかり余った。

西小学校で一万六千円余、それから中学校の改善費で
ございまして、八万七千円残ったのでございまして、これは、
工事請負費で八札が安くなりまして、四万六千円が残で
ございまして。

その上、需用費で五万六千円残っておりますが、これは扶
助費関係で、四万六千円、不用がふたというものでござ
います。

それから五七ページの六項の幼稚園費でございまして、こ

で十万六千円、不用額が出ておりますが、このおもちもな
諸手当て二万八千円、営繕費で五万三千四百六十円、不
用でございますが、営繕費、五万三千円というものは、やはり
工事請負費、館山幼稚園の便所と北条幼稚園の
小使室等の修繕、その工事の入れの結果、二だけ安
くなったということです。

それから第二点、流用、関係でございますが、当初流用
しても、さうかえないということであつたところ、今度はいよいよ
最後締めましたところ足りなくなつて、他から持つてきた
という状態になつてきましたことは、私どもも不手際でござ
いまして申し分けないと思つております。

。三五番(板本藤太郎君)館野小学校の四十数万円請負が
安んじたということで大体、おまな内容のものでございます
ます。了解いたしますが、余金は館野小学校のもの

のとして何か今後やってやる考えですか。

庶務課長(干場伊右エ門君) ニ、残った金で作ってというところはな—にせう、あの学校の屋根の張りかえとか、或いは排水路の関係とか、そういうものがやらなければならぬものがありますので、そういうものをやっていきたいと考えております。

三五番(板本藤太郎君) 小学校でも、幼稚園でも、校庭の排水、非常に悪いところがたくさんありますので、こういうふうなときには中で流用できるので、簡単にできるものは、やってやった方が本当に親に、ある見方ではないかと思ひますので、これは要望いたします。

二ページの教育費の寄付金ですが、八百万円の中、大體三百万円は、小、中学校の講堂とか、たくさんございまして、これは教育長さんにお尋ねしたいんですが、今まで

当市としては、こういった講堂とか、或いは図書館、或いは給食、プールについては、なおさらのこと寄付というものがまず、前提となって教育委員会で組まれる。このように我々は受け取っておったわけです。

今日地財政や義務教育に対する寄付禁止が出てから昨年から本年にかけては、各都市で義務教育に対する寄付というものは相当考えをいましてあります。一ないやうにしてあります。寄付だから仕方ないということでは、本当の寄付であるならいいけれども、内容を見ると寄付でない場合がたくさんある。

でありますので、今後とも今までのやうにこういったような学校施設に対して寄付というものを取ってやっていくのだという考えでよろしいか。地財政の禁止に対する関連ですが、これを教育長さんのお考えをお聞かせ願いたい

と思います。

・教育長(押本喜徳君)大へんむづかしい中質問でございますが、ただ今、市指摘いただきまゝ、土地財政における、この法律に従つてやるか、どうかというところでございしますが、公的な学校、建築施設、こういうものにつきましては、当然、公費をもつてやるべきだ、というか、法律の趣旨は、そのとおりにならなければならぬ、ということとは、私が申し上げるまでもなく、基本的な線だと存じます。――かゝるまあ、全国的に考えましても、それならば、それで完全に日本中の義務教育、或いは県立、国立でも、同じだと思ひますが、全く寄付なしで、現段階において、やるかどうか、ということになります。となかなか、そういうかたではないかと思ひうけてございまして、P・T・Aなり、学区民なり、いろいろところで、や熱意のある寄付というものが、つては、その市熱意につ

いてはお受けするということになるのではないかということもただこの機会に申し上げる程度でございます。基本的な立場については松本議員さんやおっしゃった通りになりたいと思うわけでございます。

・三五番(松本藤太郎君)校舎以外の教室以外の講堂とか給食・図書館というような場合、プールはもちろんのことです。すが、ほとんど寄付なんですわ。寄付が半分以上なければ、館山市は何も作ってやれないということですよ。

考え方がそれではいけないのだということをつく所に銘印ておいていただきたいと思は思ふ。

幾ら持つてくればいいということになれば、寄付があることをたてまえとしてしまうことになり、寄付を取ってやるということとは、義務教育に対して寄付を取ってやるということはいけないのだ。善意の寄付の場合にはこれはよろしい

でしう。一カー、名前は寄付であつても、内容が善意の寄付であるかどうか、疑わしいことはいえる。館山市の場合、

でありますから、今後、そういった点を法律に違反したことであるかどうかという気持ちを持っていただきたい。

それから、最後に市長さんにも尋ねます。

全般を見まして、黒字二千二百九十五万三千八百円、非常に大きく黒字を出してわけですが、このうち、不用額、千六百万という額を残してあるんですが、総体的でよろいんですが、千六百万というもやうおもなものを教えていただきたいと思ひます。

・助役（小出武男君）市長にかわりまして、本年度お話をうよう二千二百万繰り越して、財源が出たわけでございますが、こゝは歳入の増と歳出の不用額、こゝが合計

―たものが結局繰越―財源ということでございます。
 そううちの不用額ということになります。これは二九
 ページに大体款項別の総括表がございますが、これに
 よって千六百万円の不用額、これがおたわけでございます。
 す。

余談になります。が、館山市では今まで二千万から三千
 五百万位が繰越の額になります。が、県下の各市
 を見ますと、市参考まででございますが、同年度は最高
 が銚子の一億三千万、最低が旭の五百万円、平均五千万位
 の繰越額を持っているのが各市の状況でございます。
 私どもとしましては、いろいろ市指導の趣旨にそいまして
 できるだけ健全財政の堅持をということから、歳入にお
 きましては、できるだけの確保をはかつて、一面支出におき
 ましては、できるだけの効率を保ちながら、支出の面

節約をはかつて繰り越し賤原に充当していくという考えを堅持持しておるわけでございます。大体そういう点でございます。

三五番(松本藤太郎君)流用の額ですが、一件、どくらいいう額が流用の額、できたら収入役さんにお尋ねしたいんですが、収入役(見戸貴君)予算の流用につきましても、款項相互の流用制限というのがございまして、これは一応目的に及するものはいけません。が、その目的に及しない場合には別に金額につきましても制限はないでございます。一かーながら予算の立てまえから申しまして、著しく大きい金額を流用するということは事務的に申しましても、また予算の使用目的から申しましても、適当でないでございますので、まあ大体二十万とか、五十万とか、そういうものでなくて、十萬以下位の場合にはやっております。

三五番(松本藤太郎君)三十八年度は、大体、十萬から二十萬位が限度であるということでございますね。

二八番(西村真次君)ただ今の質問に多少關係してゐるわけでありまして、先ほど特に教育費や説明の中に校舎の建築費、こゝが当初市で見積つた額よりも入札価格の方が安くいったというや説明がありまして、安く入札価格がきまつたということとは、まことに結構でありますけれども、ただ安いというばかりでなく、その理由が質が悪くて安くなつたのかというふうなことも考えらるるわけであります。

市で当初見積りますときには相当綿密な計画のもとに予算額をきめておられると思つてあります。安いだけの品落ちがあるのではないかと、こういう点に心配されるわけでありまして、また逆に考えれば市は見積りを高くおいてあつたのではないかと、このことが心配されますので、その点に

ついで市説明願いたいと思います。

庶務課長(千場伊右衛門君) 教育委員会といたしましては、見
積りをたてる場合、建築の専門の人たちや市意見を
聞きまして、この位や坪数はこの金額でということであ
れども、私は予算を計上するわけでございますが、設計の面
におきまして、入れや前や金額はほぼそれに近い数字に
なっておつたやでございますが、それが入れるときにそれだけ
安くなつたということでございます。その建物のこうなけ
ればならないというところは、具備されておるといふうに考
えております。

一八番(西村真次君) つまり建築の様式、或いは内容、それに
市で予定しておるとおりの建築だ、それがどうして安くなつた
わけですか。資材が安く上つたということですか、手間が安
くなつたということですか。

・建築課長(高野亮三君)お答えいたします。入札の際に予定価格を作りまして予定価格できめるんですが、その際入札者が競争いたしますと、その予定価格より非常に安い場合がございまして、その場合、価格が安いということになるわけでございします。

・八番(西村真次君)中説明よくわかりました。ただ、私に配するのことが非常に大勢の子供を収容する教育施設であるだけに、建築工事に手抜きがあつてはいけないうち、非常に危険性があるような建物を残らう安いからといってそれに落とすということはどうかと思う。あくまでも建築の構想というものを十分考えた上で入札を決定すべきだ、という配から申し上げたわけでありまして了解いたします。

・議長(黒川佐太郎君)認定第一号一般会計決算書の質疑は

これにてひとまず打ち切りたいと思います。

こゝにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よつて一般会計の質疑を終ります。

続いて認定第二号乃至第八号の特別会計を一括して質疑をいたします。

暫時休憩いたします。

午後 二時三十二分 休憩

午後 二時五十分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

一番(吉田勇治郎君) 特別会計の健康保険の繰越し金の

点についてお尋ね申し上げますが、前年度も決算において繰り越し金が出ており、その前々年も非常に膨大な決算が出て議題になっておりますが、本年度も相当額の繰り越し金を出してある。と同時に反面滞納金もはふえておる状態でございます。

この未納の漸増については理由があるでしょうが、巻間においては健康保険は病気になれば、いい制度だけれどもなかなか、平常病気にあからない人については非常に苦勞しておるものであります。

この繰り越し金をもう少く皆さんが税金を納めらるるやうに予算と取り組むような考え方において、もう少く吟味して必要なだけを賦課して完全にとるという方法に強むことはできないか。毎年この繰り越し金については問題になっておりますが、繰り越し金うできた

理由と今後どういうふうに運営していか。その点をお伺いします。

それと公益質屋でございますが、こゝも毎年赤字経営世の中がこゝに頼っておられないようなことを聞くのであります。が、こゝは、今後どういうふうな考え方を持っておられるか、その点もお尋ねしたいと思ひます。

・保健衛生課長（地田亮山君）繰り越し金は三十七年度におきまして千百万ほど繰り越さいております。

こゝを三十九年度より当初予算より際に市説明申し上げましたようにこの金額は保険料の軽減に一部充てる。一部は給付費の変動によるところのもの。

なお、市参考にも申し上げておきたいのは、こゝだけ繰り越し金が出てくるのならば、保険料の軽減に充てるべきである。全く市趣旨が通りでござります。

私たちもそのような方法で計算をしておるわけでございますが、なにより国保の財政は保険の給付がほとんどでございまして、従って、その給付費の変動も亦承知のようには急増の形を取っておるわけでございます。

三十八年度の決算六百九十万ほどの残を出しておりましたが、こゝろちの五百十八万七千円ほどはすでに三十九年度の計上済みでございます。

従つて、なお付け加えたいのは、三十九年度の保険財政は相当の赤字を出しておる現状でございます。

これはひとえに給付費の増加が一番原因としておるものでございまして、

昭和四十年年度の一月から七割給付を実施することになっておりますが、その実施前にすでに相当額の不足を生ずるような保険財政でございまして、

保険財政は一般会計のうちに歳入と歳入に見合わして調整するといふような方法にいかないが、国保の財政でございます。好むと好まざるとにかくわらず支払うものは支払つていかなければならぬ状態でございます。

年度当初に一応年間、歳入を見込みまして保険料を算出するわけでございますが、なかなか思ふように算出しないと、かりに給付費が参らないわけでございます。それでなお保険税の税額と一ページの保険給付費を参照までに御覧いただきますとおわかりのように給付費は七千二百四十二万九千円余の支出で保険税は収入三千七百万円でございます。つまり給付の方がはるかに上回つてきておるわけでございます。

その調整は国の交付金をもつてするわけでございます。なお給付費の増嵩に伴ひまして給付の状況もおろず

からかわつてくるというふうなすこぶる財政的にワクにはめたような予算が組めないというような現状があるわけでございます。以上申し上げまして、中答弁に答えさせていただきます。

○福祉事務所長（鵜沢寛君）第三点、公益質屋、中質問に対して、中説明いたしたいと思います。

おっしゃる通り公益質屋は年々赤字を出しております。三十八年度もここにございますように一般会計から七十三万程度出ておるわけでございまして、運営上から見ましても現在、人質者は一部に限定されているようなものと思われ、すので、市も考えたいましては、公益質屋は三十九年度をもって一応廃止いたしまして、暫定的にそれにかわへべき貸付金制度を設けて、入質者へ便宜をはかりたいというふうに考えております。

一番(吉田勇治郎君)第一点の保険の運営でございますが、この繰り越し金の問題については隔年年度も決算委員もやりまいたが、その内容は了といっておるものでございます。

ただ、一般会計の繰り越し金と特別会計、特に国民健康保険の繰り越し金は私は性質が違ふと思うんです。真剣に調べて真剣に賦課して予算を組んだものが例えば赤字になれば一般会計からこれを投入してもあえてさうかえないものだろうと思います。特に国民健康保険に依存しているものはできるなら一般会計から一千万でも二千万でも繰り入れめんどろを見てやるのが本来であろうと私は思います。

私が申し上げましたように一般会計の決算とは違ふのでありますから赤字を生んでも結構ではないか、皆さんの軽減をはかるように今後プラス・マイナスゼロになるような

予算を組んでいただきたい。私を考えたばかりで質問を打ち切ることをいたします。

二八番(山田教字君)ただ今の質問に関連して参りますけれども、今の課長さんの説明では今でも赤字のような状態だ。一月から七割給付医療の点数が上るわけではございます。二八に対して未収入金もございしますが、大損額もあるわけであります。果たして現状のままでは保険料をどうする状態ではない得るかどうか。見通しを聞かしていただきたい。

大体におきまして七割給付になりますと、五割給付よりきりも非常に受診率が上がります。本人の場合ですと、家庭の約倍位受診率が上って参ります。統計で出ておるようではございますが、そういう状態から考えますと、七割給付になると相当の額がここから上って

くるところが、それに対して見通しに付きまゝてお伺いしたいと思ひます。

。保健衛生課長（池田亮次君）お説きとありでございませう。

三十八年度の決算では一応七百万近い繰り越しも出ております。これを三十九年度に繰り越しまゝても三十九年度の国保財政はとうていこゝまゝの保険税ではまかないきれないことは当然でございませう。

なお、かてて如えて一月からと割割給付を合わせますと相当数の赤字があることは必至だと思ひます。これは、まだ三十九年度の決算の見込みでございませうから、数字的には、ちやうとまだ申し上げかわる段階でございませうが、今まで想像してありまゝな数字をはるかに上回つた赤字があることを予想しております。

これは各年度ともかやうに申されておつたわけでございませうが、

特別会計でございますからいいよい、それで澤山がつかな
 かった場合、最終の方法として一般財源で処置してやる
 のだというお話も伺ってきておるわけでございます。

国保を担当いたします私たちといたしましては、それにもっと
 も期待しておるわけでございます。

四十年も続きまして相当額のものが必要ではなからうか、四
 十年度の保険税を積算しまして、そのもので賦課した
 場合を考えてみますと、先ほど吉田議員さんから、市質
 問のあった莫大な保険料が算出されることになるわけ
 でございます。これとても、被保険者の負担にもある程
 度の限度というものがあると考えております。そこで一般
 会計のごやつかいにならなければならぬというではないかと
 いうふうに考えております。

。三番（三沢節君）ニ、際動議を提出いたします。

ただ今議題となっております認定第一号乃至第八号、昭和三十八年度一般会計並びに特別会計の決算書につきましてはおおたくさんの御発言がありと存托しますが、ひとまずこの初で質疑をお打ち切りまして、本決算書については極めて慎重に審査を要することと存托します。一かも相当の日時が必要かと存托します。で決算審査特別委員会を設置いたしまして、その期間を三月の定例会までと一審査を付託し、なお委員の数は十名といひまして、選任の方法は先例により議長、監査委員及びすでに決算委員となつたものを除いて、この任期中、全員が決算委員に選出されますよう、御配慮の上、議長の名に限り選任していただきますよう、ここに議会議事協議会も代表して議事進行の動議を提出し、尚場の御賛成を得たくお願い申し上げます。

(賛成といふ者あり)

議長(黒川佐太郎君) ただ今、三二番議員君より提出さるる議事進行の動議を議題といたします。

ただ今、動議は認定第一号乃至第八号の質疑はまず、この切で打ち切り、慎重審査の必要上、特別委員会を設置。これに付議し、特に閉会中、審査し、特別付託をいたしたいということであります。

おはかりいたします。この動議に異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって決まりました。

重ねておはかりいたします。

本動議によりますと委員の数は十名、選任の方法は、先例に基き、選挙、議長において指名するということ

であります。これに市異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）市異議なしと認めます。よって以上とあり決まりました。

こゝより決算審査特別委員会委員と指名いたします。

二番議員 鈴木正一郎君 三番議員 小柴孝君

五番議員 田中祿郎君 二番議員 石井正君

八番議員 西村真次君 九番議員 藤田好治君

四番議員 島野茂樹郎君 元番議員 鈴木孝君

三番議員 安藤亀吉君 三番議員 三沢節君

以上十名を決算審査特別委員会委員に選任いたします。これに市異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）市異議なしと認めます。よって決定いた

一まーた。

ただ今選任さしまつた決算審査特別委員会に認定第一号乃至第八号の審査を一括して付託し、閉会中審査を付議いたします。こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)市異議なしと認めます。よつて決まつた。

ただ今選任さしまつた委員の方々は本日中に正副委員長と互選いたしますので、市了承願します。

本定例会に付議さしまつた案件は全部議了いたしました。よつて昭和三十九年度第四回市議会定例会をこゝにて閉会いたします。

午後三時十二分

閉会

本日、會議に付、大事件
一、議事日程に同一。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

荻生 田七郎

鈴木 孝

鳴田 繁

山田 教字

鈴木 市蔵

安藤 龜吉

安沢 徳順

三沢 節

高橋 文治

山本 昇

松本 藤太郎

山口 康

欠席議員

菊井 敏博

出席説明者

第一日目に同ト

出席事務局取員

第一日目に同ト

昭和三十九年十二月十八日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長 黒川修吉

同 署石議員 島野茂樹郎

同 同 菊井時子

